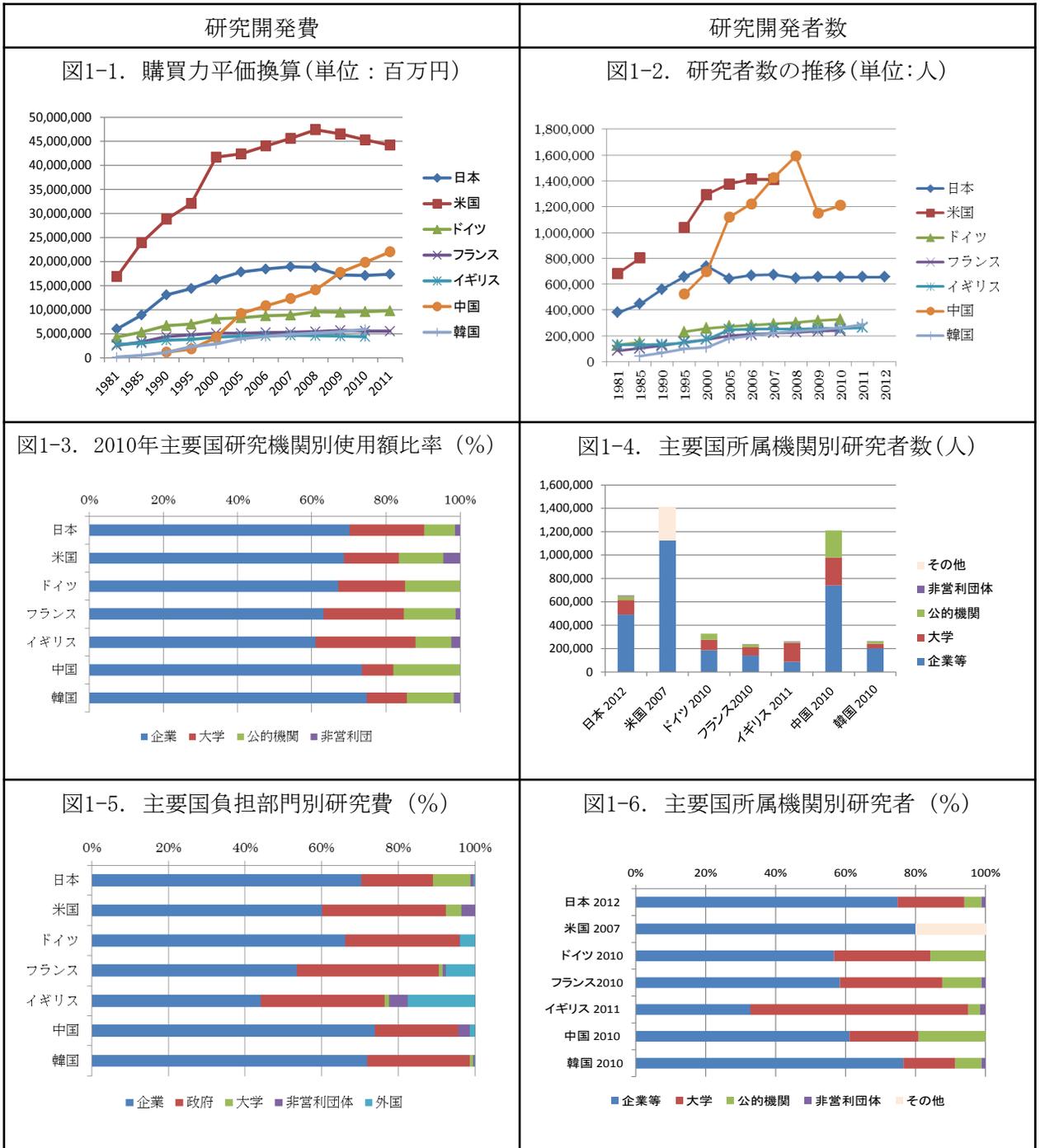


神田のカルチャータンより

科学技術指標に見る我が国の研究開発の方向

以下、2013年8月に発行された「科学技術指標 2013」の統計集から抽出、作成したグラフおよびそれらに対する若干のコメントである。

図1. 主要国における研究開発費・研究者の状況



1. 中国の脅威

- ・我が国の研究開発費並びに研究者数は横ばい～低下傾向にある。(図表 1-1、図表 1-2)
- ・我が国と比較して米国、中国の研究開発費、研究者数の伸びは著しい。特に中国の研究者数の伸びは驚異的であり、現時点で米国を上回っていると推測される。
- ・研究開発費の過半は人件費であることから、先進国と比較して賃金レベルの低い中国は研究者を大量に雇用し、実質的に費用の伸びをはるかに上回る研究開発投資を行っている。

2. 我が国の現状

- ・我が国の人口比研究者数は突出して多く、GDP比の研究開発費も3%と高い水準を維持している。
- ・しかしながら、我が国では同一分野に競合企業が多く、グローバル競争に勝つための企業集約が叫ばれて久しい。しかしながら、我が国で企業集約が進むのは、我が国の産業競争力が低下してから、企業に活力がなくなってからである。
- ・各産業の競合企業は、研究開発でも競合している。特に垂直統合的な研究開発が多くなれば、ヒトもカネもたくさん投入しているように見えて、各社が広く、薄く投入していることになり、国全体で見れば無駄が多いことになる。

3. 今後の方向

- ・企業の集約が進まないのなら、せめて研究開発は集約、集中研究すべきと考えられる。
- ・どこまでをオープンにし、クローズにするかの問題はあっても、オープンイノベーションは必要であろう。

4. 国の研究開発費

- ・一国の研究開発費に占める政府支出割合は他の国と比べて少ないが、それでも3.6兆円である。この研究開発費の3分の2は文科省である。(図表 1-5、図表 2)
- ・産業界は文科省との連携強化にも留意したいところである。
大学等の機能の活用と人材の育成、人材交流を意図した産学連携強化である。

図2. 2013年度 国の省庁別研究開発費予算

